

新たな総合リハビリテーション病院・こども医療福祉センター（仮称）基本設計の概要①



■建物構造 鉄筋コンクリート造（3階以上は鉄骨造）、地上5階（一部6階）

病 院	1～2階	鉄筋コンクリート造（RC造）
	（病棟下部）	鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）
	3階以上	鉄骨造（S造）
こどもセンター（入所）		鉄筋コンクリート造（RC造）

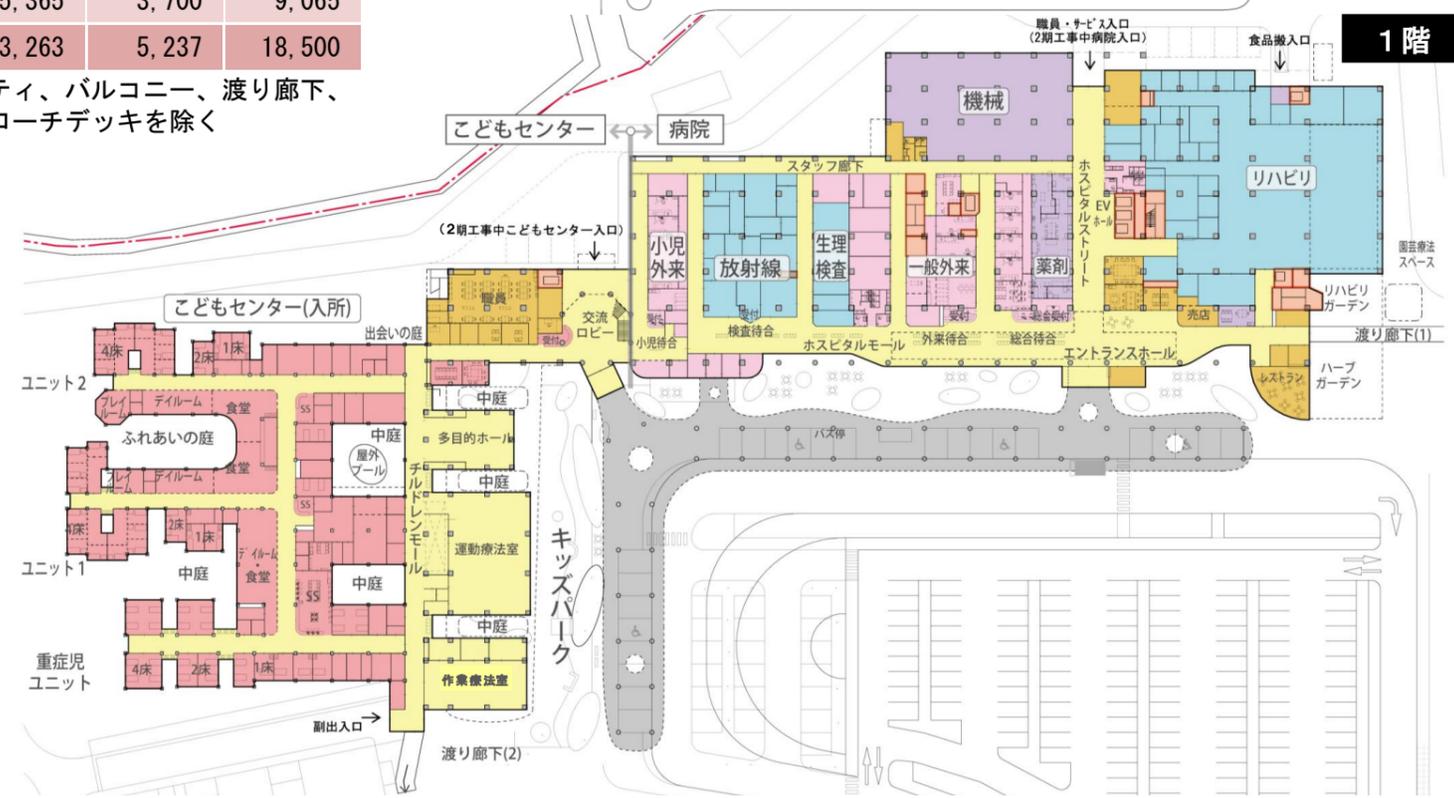
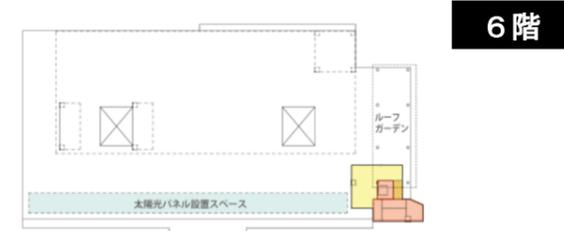
■階 構 成

病 院	6階	屋上リハテラス
	5階	病棟（回復期リハビリテーション病棟：50床）
	4階	病棟（回復期リハビリテーション病棟：50床）
	3階	病棟（一般病棟：50床）
	2階	手術・中材、検体検査、厨房、医局・事務局
こどもセンター	2階	障害児通所（保育室、ランチルーム、リハビリ）
	1階	障害児入所（ユニット1：16床、ユニット2：12床、重症児ユニット：22床、母子入園：2床）、
		リハビリ、多目的ホール、職員室

■延床面積 18,500㎡

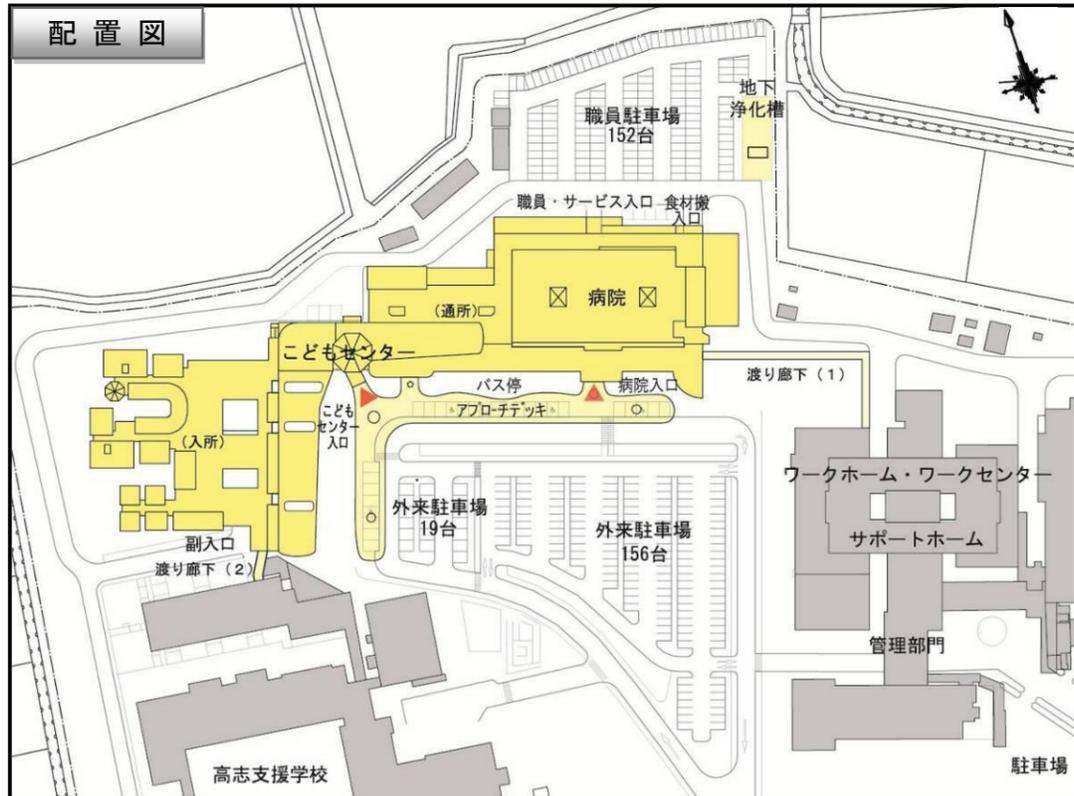
階	病 院	こどもセンター	計 (㎡)
6F	178		178
5F	1,798		1,798
4F	1,798		1,798
3F	1,831		1,831
2F	2,293	1,537	3,830
1F	5,365	3,700	9,065
計	13,263	5,237	18,500

※ピロティ、バルコニー、渡り廊下、アプローチデッキを除く



■配置計画

- ・新病院・こどもセンターは、着工前の既存建物移転・解体等による現施設利用者への影響が少ない敷地北側に配置
- ・新病院は、現病院と敷地内の障害者施設にアクセスしやすい位置とし、こどもセンターは、高志支援学校との近接を重視し、入所児童の通学路を確保した配置
- ・外来駐車場は、敷地中央の利用者用道路に囲まれた位置に十分なスペースを確保し、新病院・こどもセンターやその他施設へアクセスしやすい配置
- ・身障者用駐車場は、雨天時、降雪時に配慮し、新病院・こどもセンター前のアプローチデッキ下部に設置



■設計コンセプト／5つの特徴

- ① すべての人を優しく受け入れる「ユニバーサルケアタウン」
- ② 広く充実したリハビリ環境とシンボルタワーとなる「展望リハステップ」
- ③ アメニティの向上と365日リハに最適な病棟環境
- ④ 大きな屋根と交流ロビーによる楽しさを感じるこどもセンターのデザイン
- ⑤ 光、水と木の温もりに包まれた子どものための優しい環境づくり

① すべての人を優しく受け入れる「ユニバーサルケアタウン」

幼児期から高齢期までのライフステージに応じたリハビリ医療を提供する県の中核施設として、患者や心身に障害のある子ども、その家族などすべての人を優しく受け入れる「ユニバーサルケアタウン」を実現する

○アプローチデッキ

病院とこどもセンターの玄関前を大きな庇で連続させて、一体感を保ち、冬季や雨天時の車寄せ、屋根付き駐車場、バス乗り場として複合的な安全性、利便性を確保

○ホスピタルモール

病院の正面玄関からこどもセンターの交流ロビー、チルドレンモールへ繋がる一部吹き抜けの通路状空間で、待合、売店、レストランなどを配置し、外部テラスや植栽を連続させて「ユニバーサルケアタウン」の賑わいや楽しさを創出

○外来診療

診察、検査部門をホスピタルモールに沿った直列配置とし、患者にとってわかりやすく利用しやすい構成とするとともに、小児外来をこどもセンターに近接配置して、小児にとっての最適な診療環境を確保

③ アメニティの向上と365日リハに最適な病棟環境

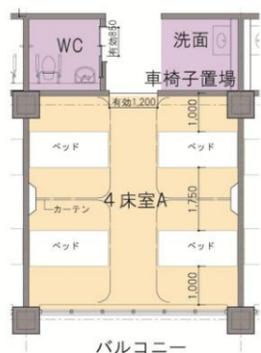
○病棟環境

在宅移行を促進するため、1日120分以上、365日リハビリ訓練の実現に向けて、病院生活のすべてが訓練の場となる最適な病棟環境を提供

- ・病棟廊下での歩行訓練のための8の字回遊動線の確保
- ・車椅子利用可能なトイレの分散配置、広い病室と十分なベッド間隔の確保
- ・「ファミリーラウンジ」がある4床室や南向きの明るい食堂・デイコーナーの分散配置などアメニティやプライバシーの向上
- ・見守りしやすい「センター配置型スタッフステーション」

◇病室のタイプ

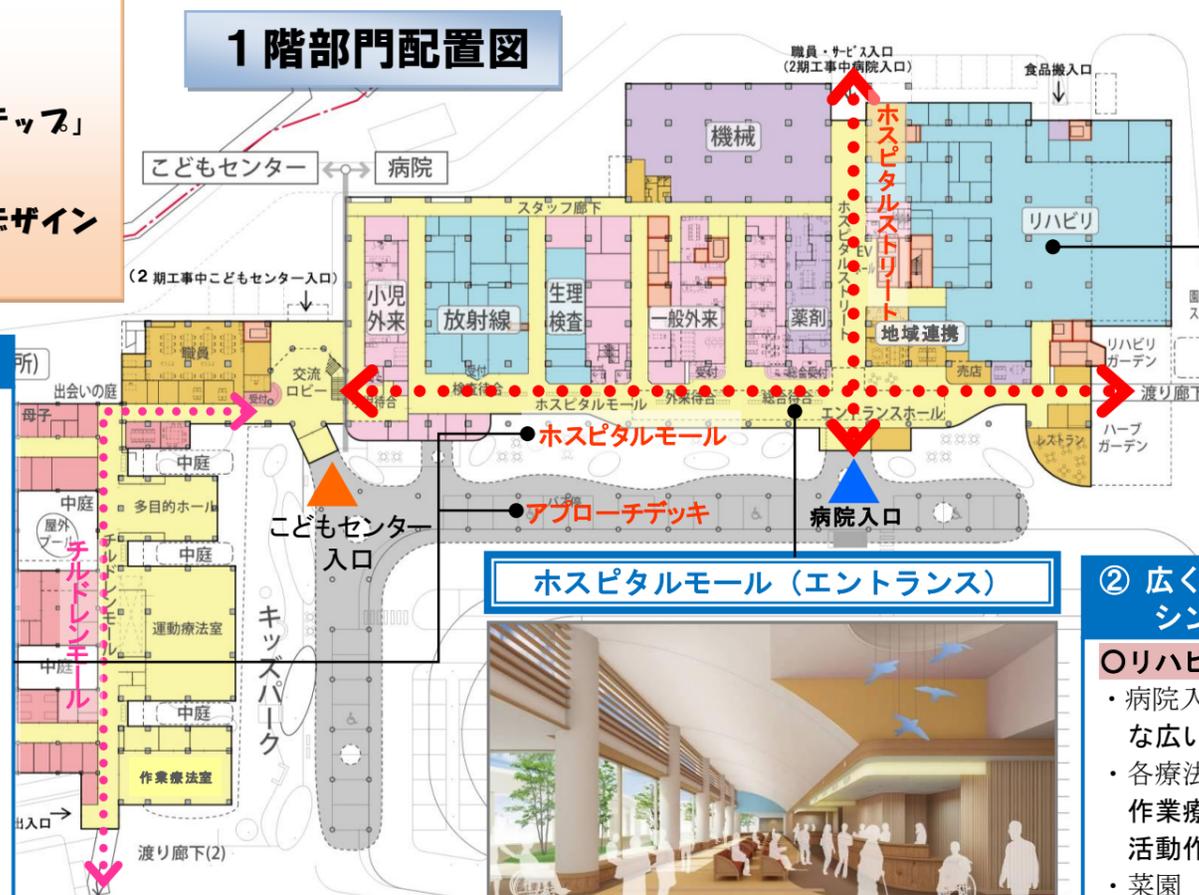
車椅子トイレ付き4床室



ファミリーラウンジ付き4床室



1階部門配置図

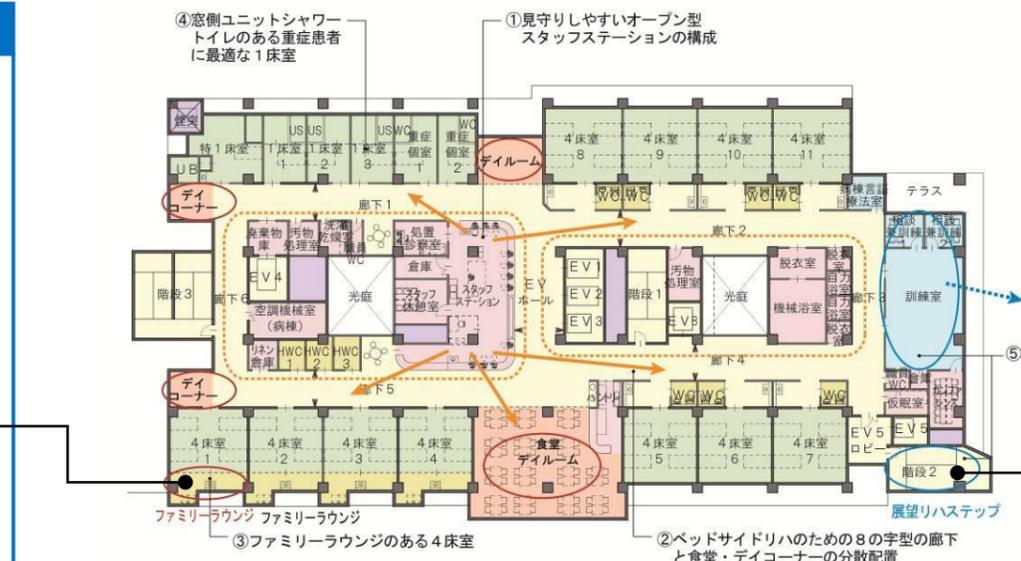


ホスピタルモール（エントランス）



病院のエントランスから外来待合、こどもセンターへと続く、南に面した吹き抜けの明るい開放的な空間

病棟配置図（3F）



◇病棟病室構成

階	病棟構成	病床数	4床室	1床室	重症室(個室)	特1床室
5階	回復期リハビリテーション病棟	50床	11室(44床)	4室(4床)	2室(2床)	—
4階	回復期リハビリテーション病棟	50床	11室(44床)	4室(4床)	2室(2床)	—
3階	一般病棟	50床	11室(44床)	3室(3床)	2室(2床)	1室(1床)
合計		150床	33室(132床)	11室(11床)	6室(6床)	1室(1床)

リハビリテーション部門



② 広く充実したリハビリ環境とシンボルタワーとなる「展望リハステップ」

○リハビリ部門

- ・病院入口、病棟からのアクセスを考慮し、かつ、開放的な広い空間を1階東側にまとめて配置
- ・各療法士が同じ患者に対し連携できるよう理学療法室、作業療法室を連続した空間とし、さらにADL（日常生活動作訓練）室、手工芸室を共同利用できるような配置
- ・菜園（園芸療法）、リハビリガーデン、カーポート（自動車乗降訓練）等在宅生活や社会復帰に向けた屋外訓練環境を整備
- ・言語聴覚療法室をはじめ個室療法室の充実を図り、多様な訓練に対応

○展望リハステップ

- ・開放的な階段、エレベーターにより、リハビリ部門（1階）と各病棟の訓練室、さらに最上階の屋上リハスペースを立体的に繋ぐことで、立山連峰の眺望を楽しみながら訓練や移動ができるスペース
- ・病院生活のすべてが訓練の場となり、365日リハビリを象徴するシンボルタワーとしてデザイン

展望リハステップ



1階と病棟の訓練室を直結し、立山連峰の眺望を楽しみながら訓練や移動ができる「展望リハステップ」

④ 大きな屋根と交流ロビーによる楽しさを感じるこどもセンターのデザイン

こどもセンターは、「交流ロビー」のシンボルタワーを中心に、「大きな屋根」で一体感を創出するとともに、外壁を黄水仙の明るい色合いとし、子どもや保護者が楽しさを感じるデザインとする

○シンボルとなる八角形の「交流ロビー」

- ・複合施設において、こどもセンターの独自性を明確にし、遠方からの訪問者からも楽しいシンボルとなるような八角形の塔としてデザインし、内部の明るい吹抜け空間により入所、訓練、通所を繋ぐ交流の場
- ・全方位への開放性を意味する八角形は、県内全域を見守る「子どもの療育拠点」の象徴

○訓練と通所ゾーンを繋ぐ「大きな屋根」

- ・交流ロビーを中心に、鳥が羽を広げたようなL型の大きな屋根で1、2階の訓練と通所ゾーンを繋ぐことにより、こどもセンターの一体感を創出
- ・大屋根の下には、多様な大きさの曲面窓を配して、大らかに楽しい雰囲気を演出

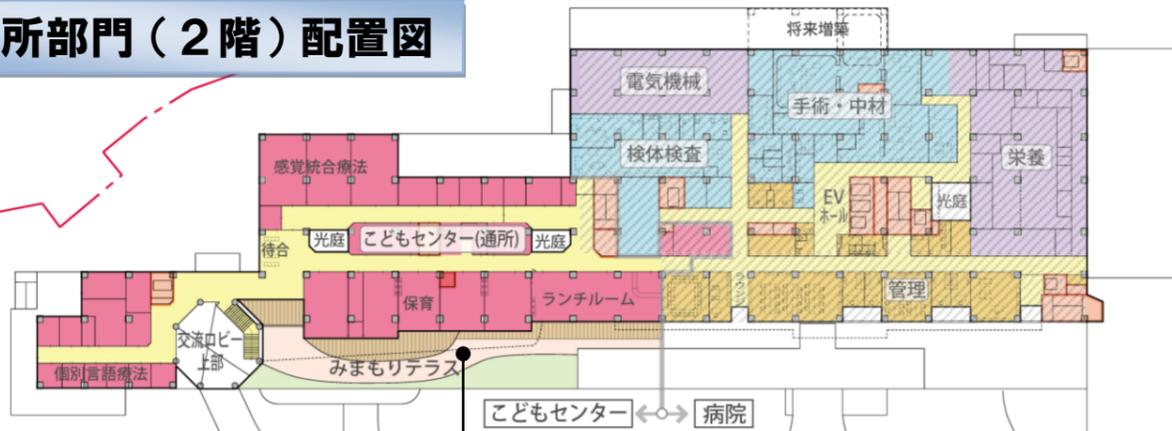
交流ロビー



県産材や土壁に包まれた温かみのあるインテリアで楽しい雰囲気を作り出す



通所部門（2階）配置図

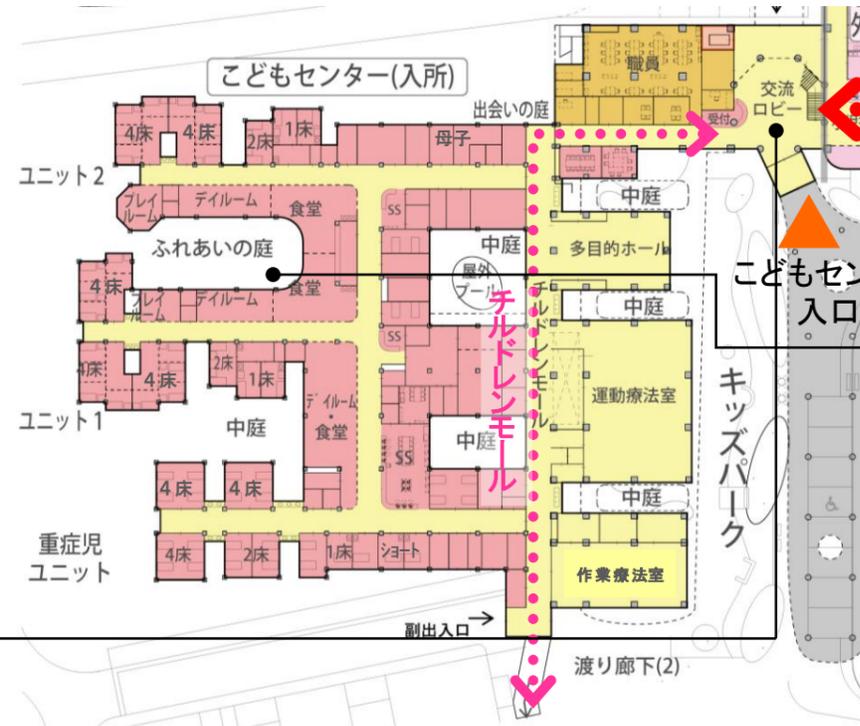


みまもりテラス



○通所ゾーン

- ・利用者増も考慮した十分なスペースを確保するとともに、保育室やランチルームを南側に配置し、十分な自然光が取り込める明るい居室空間
- ・保育室と感覚統合療法室・個別訓練室は、多様な障害のある子どもの混在を避けるため、別々の廊下に面して設置
- ・南面に「みまもりテラス」を設置することで、地上にいるような安心できる環境を創出



入所部門（1階）配置図

ふれあいの庭



入所ゾーンの食堂に面した「ふれあいの庭」は、外出の機会が少ない子どもたちにも、身近な自然と触れ合える環境を提供

⑤ 光、水と木の温もりに包まれた子どものための優しい環境づくり

○入所ゾーン（生活ゾーン）

ゆとりある3つの居室ユニットで構成し、「リビング付き4床室」や「全ベッドサイドに窓のある居室」、内装の木材利用など、みんなで暮らす家（生活の場）としての家庭的で温かい療育環境を提供

◇ユニットの構成

ユニット区分	人数	4床室	2床室	1床室	その他
ユニット1（中度児）	16	3室	1室	2室	デイルーム、食堂、プレイルーム
ユニット2（軽度児）	12	2室	1室	2室	デイルーム、食堂、プレイルーム
重症児ユニット	22	3室	3室	4室	デイルーム、食堂
母子入園室	2	-	-	2室	デイルーム、物入れ、浴室等
計	52	8室	5室	10室	

- ・高志支援学校への通学を考慮し、学校側から重症児ユニット、ユニット1、ユニット2の順に配置
- ・重症児に対応するため、各居室に酸素・吸引等の設備を整備
- ・多様な障害、年齢、性別等に対応できる1床室、2床室を新たに設置
- ・重症児ユニットに短期入所専用居室（個室2室）を設置
- ・ユニット1・2の食堂にサテライトキッチンを併設し、家庭的で温かい食事を提供
- ・デイルーム、食堂、プレイルームを一体化し、広々とした生活空間を確保
- ・十分な広さの図書室、学習室を確保

○訓練ゾーン

- ・1階チルドレンモール東側に、運動療法室、作業療法室、多目的ホールを配置し、入所・通所児や高志支援学校の児童生徒のために、多様な障害に対応できる訓練環境を確保
- ・2階は、個別言語療法室、感覚統合療法室など、主に通所児（未就学児）が利用するエリアとして配置
- ・多様な訓練ニーズ等に対応するため、訓練個室や保育室を十分に確保

◇居室のタイプ（リビング付き4人室）



自宅にいるように寛げ、プライバシーも確保した4人室

○外部空間

- ・アプローチ周りの子どものための楽しい街並みとなる「キッズパーク」、入所ゾーン中庭の「ふれあいの庭」、「屋外プール」、通所ゾーンの「みまもりテラス」など、子どもや保護者が楽しさを感じ、集い、語らいの場となるランドスケープデザイン

